

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
 編集者：代表幹事 高橋 賢一  
 連絡先：市民活動支援センター  
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
 (渋川福祉センター内)  
 TEL 0561-51-2878

### 自然分解 プラスチック増産

#### 微生物を活用

#### 海洋汚染対策に商機

通常のプラスチックは自然環境では分解されない。新素材は微生物も活用し、土の中なら2年以内、海水の中なら6カ月以内、90%以上が分解される。

ストローやスプーンといった食器類のほか、港湾で使う資材などの用途も今後開拓する。

カネカは海洋プラスチックの処理に商機を捉えている。

想像へのさらなる増設も視野に入れている。

三菱ケミカル日ノイで生分解性プラスチックを年2万トン作っているが、開発した別の素材も量産を始める。

世界大手の独BASFは自然分解できる素材をそろえた。セル式コーヒーマシンの包装材料などに供給。



▼ 落下橋と流左岸の現状



▼ ビンの内身はマイクプラスチック

### 環境ホルモン社会

現代の生活はプラスチックなどでは到底成り立たない。どんな場面を切り取っても、プラスチック製品やビニール製品など、合成樹脂でつくられた日用品が溢れ返っている。

これらの製品は、かみゆもの、ペン、パレットなどもある。

製造時に利用されるビスフェノールA(BPA)やポリ塩化ビニル(PVC)、フタル酸エステルなどは、さまざまな化学物質は、使用しているうちに溶け出し、飲食物に移行するおそれがある。これらはいわゆる環境ホルモンと呼ばれ、私たちの心と体をさまざまな方向から蝕んでいく。

▼ 保育園ではDVDでマイクプラスチック

▼ 保育園ではDVDでマイクプラスチック

▼ 保育園ではDVDでマイクプラスチック



環境ホルモンの正式名称は内分泌かく乱物質という。

体内ホルモンのまっすぐに作用し、文字通り内分泌系ホルモンの合成・分泌を阻害する。

テウの働きをかく乱させる物質の総称である。

近年では胎児期にBPAはとられた男児は、不安やうつ病の症状が知られる。

ことや子供の歯の黄ばみ、悪影響(全乳歯形成不全)をもたらすこと、多動や自閉症のリスクを高めるとのことなどが、それぞれ報告されていく。



確かに生体系(性ホルモン系)が環境ホルモンの悪影響を特に受けやすいのは事実であるが、体内で働いている多種多様なホルモン全般もかく乱させ、心身の健康問題をもたらし得る。

